

## 1 令和元年度 研究主題の設定（コミュニティ・スクール研究）

地域とともにある、子どもの願い・あこがれをかなえる学校づくりをめざして  
～学校・家庭・地域が連携した授業づくりを通して～

## 2 主題設定の理由

### （1）社会の要請や教育界の動向から

コミュニティ・スクールとは「学校運営協議会を設置した学校」という意味である。では、なぜ、コミュニティ・スクールが必要かということ、学校の諸問題はこれからの地域においても重要な問題だからである。今回の学習指導要領の改訂では「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」こと、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現が明示されている。つまり学校として目指すべき教育の在り方を家庭や地域と共有し、その連携及び協働のもとに教育活動を充実させていくことが求められている。

### （2）地域・学校の実態から

本校は全校児童197名の学校である。7年前、児童減少に伴い、西海市の瀬戸地区、多以良地区、松島地区、幸物地区の4つの地区の小学校・分校が合併し大瀬戸小学校として誕生した。人数が増えたことでこれまで以上に児童同士の活発な活動を行うことができるようになった反面、これまで各地区と密接に結びついていた地域教材の活用が距離的にも時間的にも難しくなっている。その結果、学校と地域との関わりが薄くなっており、教職員も地域を深く知る機会が失われている。

### （3）児童の実態から

地区の枠を超えて、遊んだり、それぞれの地区の行事に参加したりしている児童もいる。しかし校区が広く、学校以外での児童同士の交流は十分とはいえない。また、一クラスの人数は30名を超えるクラスが多く、活気がある反面、学力差が大きく、個に応じた指導の工夫が求められている。その一方で、子どもたちは多様な願い・あこがれをしっかりともち、自分の夢に向かって努力しようとしている姿を見ることが出来る。それぞれの地区がこれまで培ってきた様々な環境や文化が子どもたちの成長に大きく影響を与えていることが考えられる。

そこで、昨年度からコミュニティ・スクールに係る研究について、長崎県教育委員会の指定を受け、学校と地域が子どもたちを共に育み、子どもたちが抱える課題の改善に学校と家庭、地域が一体となって取り組むための研究を進めてきた。これまで以上に学校の活動に地域を巻き込み、地域の方と一緒に学習をつくる機会を増やしてきた。

今年度は昨年度作成した地域カリキュラムをもとに、授業を通して自分の思いを伝え合い、学校や地域の課題に主体的に取り組もうとする児童を育てたいと考え、標記研究主題を設定した。

### 3 研究仮説

コミュニティ・スクールとしての授業づくりを通して、子ども同士が互いに認め合い、磨き合うクラスの中で、子どもたちに関わる地域の事柄に主体的に関わったり、諸問題を主体的に解決したりするような学習を積み重ねていくことで、子どもたちの地域への愛着や課題解決力が高まり、自分の願い・あこがれに近づいていけるであろう。

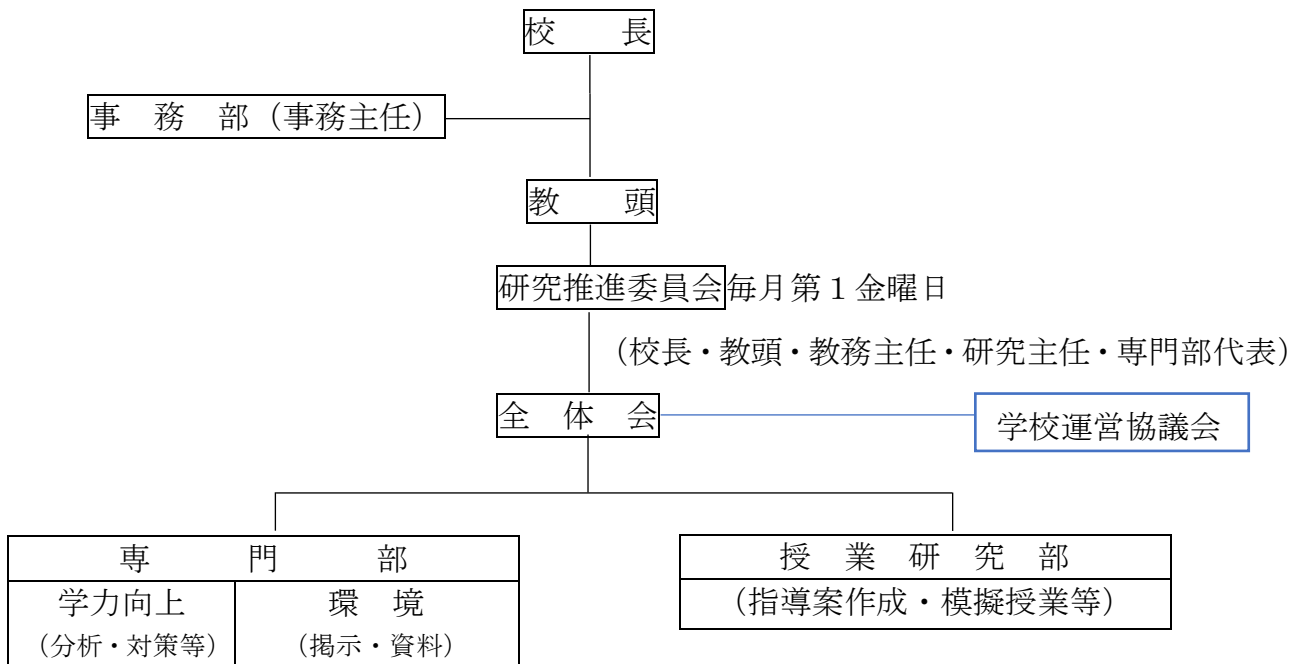
#### コミュニティ・スクールとしての授業づくりの視点

- 【視点1】子どもの気付き、願い・あこがれを広げ、深めるような地域人材の活用
- 【視点2】4つの地区の「人・もの・こと」の活用
- 【視点3】学校運営協議会を活用した教材研究・授業

#### 授業を支える7つのポイント

- ①学習規律の徹底（学習用具の精選、忘れ物0、返事、挨拶、話型・聴型、ノート）
- ②言語環境の充実（教室掲示、掲示物）
- ③ICT機器の活用（写真、ビデオ、電子黒板）
- ④読書活動の推進（図書室利用、市の図書館利用）
- ⑤交流の工夫（ペア活動、班活動、座席配置）
- ⑥家庭学習の充実（宿題、自主学習の取り組み方、学びのすすめ）
- ⑦共生文化の創造（児童間、教師間、教室内、家庭内、地域）

### 4 研究組織



## 5 研究のあゆみ

### 1年目（平成30年度）

「地域とともにある、子どもの願い・あこがれをかなえる学校づくりをめざして」  
～子どもの学びを支えるコミュニティ・スクールの構築～

- (1) 学校運営協議会設置に向けて
  - ①目指す子ども・地域像のビジョンの共有
  - ②学校運営協議会メンバーの選定
- (2) 地域カリキュラム作成
- (3) 地域人材を活用した授業実践

### 2年目（令和元年度）

「地域とともにある、子どもの願い・あこがれをかなえる学校づくりをめざして」  
～学校・家庭・地域が連携した授業づくりを通して～

- (1) 学校運営協議会運営開始
- (2) 地域カリキュラムと地域人材の位置付け
- (3) 学校運営協議会を活用した授業実践

## 6 研究の実際

### (1) 学校運営協議会の設置及び運営

平成30年度にコミュニティ・スクールの研究委託を受けスタートした本研究では、まず、1年目に学校運営協議会の目指す育てたい子ども像の協議や協議会のメンバーの選定など、組織づくりに多くの時間を使った。当初は30名を超えるメンバーだったが、より活発な熟議を行うために、先進校視察を行ったり、近隣校のシステムを参考にしたりしながら20名程度のメンバーへと精選した。そして、学校運営協議会からの子どもたちへのメッセージを設定することができた。

令和元年度に入り、正式に学校運営協議会が発足し、学校運営に関する基本方針の承認を行った。今年度は特に授業支援を中心に熟議を重ねてきた。また、あいにくの雨天中止となったが、学校行事である運動会での「地域種目」を新設したり、地域のペーロン大会への参加の仕方を話し合ったりした。



<学校運営協議会>



<ペーロン大会>

## (2) 地域カリキュラム作成及び活用

これまでも地域の方の力を借りて様々な行事や各学年の授業を行ってきたが、連絡調整の煩雑さや教職員の異動による引継ぎ不足などの問題があった。そこで、各学年の学習内容と地域の人材や行事などが一目で分かり、継続的に活用できるものを作成することにした。

まず、平成30年度に学校運営協議会で大瀬戸地区の1年間の地域の行事を整理し、小学校の行事やカリキュラムと重ね、連携できそうな単元や領域を考え、地域の行事と学校のカリキュラムが重なった「地域カリキュラム」作成した。

令和元年度は、その地域カリキュラムを基に、各担任が地域と連携していきたい内容を書き込み、学校運営協議会で協力体制を整えていった。



<校内研究での地域カリキュラム作成>

<大瀬戸音頭（運動会）>

西海市立大瀬戸小学校 コミュニティ・スクール 地域カリキュラム (H31.5) 赤字は今年度考えている地域人材リスト

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
学校行事	入学式 授業参観 懇談会	運動会 大瀬戸音頭 (たんぽぽ民謡教室・浦本さん)	授業参観 懇談会		平和集会	授業参観 懇談会			人権集会 学級別総会 懇談会	食への感謝の つどい(生食者 など)	授業参観 (学習発表会) 懇談会	卒業式	
1年	国語 図書室と仲良 くなるう；図書 ボランティア	生活 (国語時 たんけん)								国語 (おみせやさん ごっこ)	体育 (竹馬) 竹馬が 得意な方		11月：発表授業
2年		生活 動物 ミニマト 農家の方	生活 (生き物 さがし)	生活 (町たんけん)			生活 (町たんけん) 地域の方	生活 (くふうおもちゃ) おもちゃ作り名人					
3年	社会 (わたしたちの まのようす)	総合 わたしたちの まのようす 市役所 (大豆を育て よう)						総合 大豆加工品 豆腐作り (私のまの とっておき)		社会 安全な暮らし を守る 西海警察署	総合 ピロ袋かけ 竹嶋さん 社会 (昔のくらし)		長崎百袋農業 協同組合(大瀬 戸支店) 大瀬戸町漁業 協同組合・社会 科地域学習
4年		総合 ビゴの収穫 竹嶋さん	総合 元気の野菜 ～ポカシー・田口昭子さん(健康美 化を考える会の会長)			総合 (障害のある 方との交流)	社会(51年度)の 安全な暮らし を守る 西海警察署	社会 地域の発展に つとした人々		社会 昔から伝わる 行事 (2000年あたり)			
5年		総合 福祉体験 (野菜づくり)	家庭 (はじめての ソーイング)	総合 (福祉施設交 流) 社会福祉協 議会、海軍荘		家庭 (わくわくミ シン) 婦人会	総合 (福祉施設交 流) 社会福祉協 議会	家庭 朝食のおかず		総合 平和学習	総合 (防災文庫 各保育園)		
6年				総合 (大瀬戸のよ さ；夏まつりポ スター) 竹口さ ん		家庭 (楽しくソー イング) 婦人会	総合 町づくり プロジェクト) 地域課 家庭 (くふうしようかい) 食卓			社会 福祉教室 市役所課	家庭 (共に生きる 生活) 地域の方 を招待		11月：発表授業
地域C.S. 実践部隊	○大瀬戸音頭 ○宇波園づくり		○水泳指導補助 ○赤心丸つけ隊		○鍵盤ハーモニカ・リコーダー補助 ○半級PTA 松葉児童見守り				○卒業式・式後指導等				
地域行事	たんぽぽさん (節前) 花まつり (松島；上旬) 花まつり (瀬戸；下旬) こんびらさん まつり(節)	竜宮開港 感謝祭(松島) ホタル観賞会 (節) グランドゴルフ 大会 (総合公園)	ペーロン (松島・向島) ペーロン まつり (節前)	大瀬戸 夏まつり (節前) 盆踊り (各地区) 精進流し(節) 東西浜ビヤ ロン大会 (東西浜)	敬老会 (各地区)	瀬戸地区 町民運動会 松島地区 町民運動会・ 球技大会 (高年) 多比良地区 町民運動会 (高年) 松島くんち	大瀬戸 ふれあい集い 多良良くんち 多比良地区 公民館まつり (3年に1回)	はづもうで；文 化祭(松島)	鬼火焼き (各地区) もぐらうち (高年)	節分(節前)			

教科名の後に( )無：ゲストティーチャーとして地域の方が授業参加 有：授業の活動に子どもたちと一緒に参加・子どもたちを支援

### (3) コミュニティ・スクールとしての授業実践

平成30年度は地域人材や地域行事を活用した授業を各学年で多く取り入れた。これまでの総合的な学習の時間や生活科だけにとどまらず、社会科でも授業研究を行った。



<H30. 1年生：生活科「ふゆとなかよし」（かぞくといっしょにおしょうがつ）>  
地域のお年寄りと一緒に昔遊びを通して交流する活動を行った。



<H30. 2年生：生活科「はっけん くふう おもちゃづくり」  
生活科のおもちゃ作りの工夫を地域の方と一緒に遊ぶ中で見つけた。



<H30. 3年生：社会科「昔から伝わる行事」>  
地域の祭り「とんぼんさん」を題材に、ICT機器を活用して導入を行った。



＜H30. 5年生：総合的な学習「心を広げよう つなげよう」＞  
お年寄りとの交流で気を付けることをKJ法を使って子どもたちが考える授業を行った。

令和元年度は学校運営協議会が発足し、実際の授業への協力だけでなく、授業づくりも一緒に行った。また、地域にある西彼杵高校との連携も取り組み始めた。



＜R1. 5年生：総合的な学習「高齢者疑似体験」＞  
社会福祉協議会の方の協力で高齢者疑似体験を行った。



＜R1. 5年生：総合的な学習「海風荘でのお年寄りとの交流会」＞  
地域に住むお年寄りの方と実際にふれあうことで、元気パワーを届けた。

## 7 研究の成果（○）と課題（△）

### （1）学校運営協議会について

- 平成31年4月に組織として運営が始まり、コミュニティ・スクールとして機能し始めた。
- 学校運営協議会から更に少人数の事務局会議が生まれ、活性化に向けて随時話合いがもたれている。
- 学校運営協議会では、学校からの協力をお願いするだけの会ではなく、学校運営協議会から学校へ提案がなされ、双方向の話合いが行われてきた。
- △学校運営協議会が夜に開催されることが多く、教職員が参加しづらい。
- △保護者や児童の学校運営協議会に対する認知度が低い。

### （2）地域カリキュラムについて

- 地域カリキュラムのモデルができ、各学年が地域と関わる授業づくりの見通しをもつことができるようになった。
- 地域人材を明記することで連携を取りやすくなった。
- △一度作れば終わりではなく、毎年見直しを行う必要がある。

### （3）コミュニティ・スクールとしての授業づくりについて

- 学校運営協議会のメンバーが、積極的に学校行事や授業づくりに関わろうとしている。
- 学校運営協議会で教職員が発信したことを、地域コーディネーターが地域の人につないでくれて教職員の負担が軽減された。
- △普段の授業や学校生活において、見守りやサポートなどの支援ができるよう検討していく。